

学校の先生へ（中高校生用）

吃音症（どもり）について

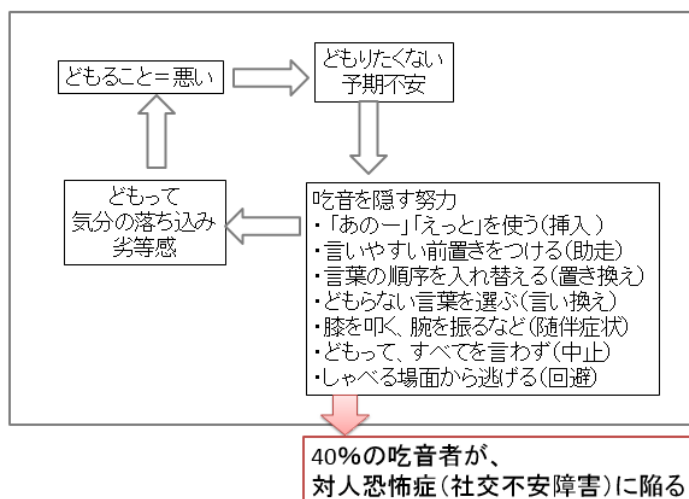
吃音（きつおん）は、言語発達の盛んな2～4歳頃に人口の5%に発症するありふれた言語障害ですが、思春期・成人になっても人口の1%（100名中に1名）に存在しています。吃音は、2011年に吃音のあるイギリスの王ジョージ6世の映画『英国王のスピーチ』がアカデミー賞を受賞したことで有名になりました。

一番知ってほしいのは、吃音のある生徒は、常にどもっている訳ではないことです。普段の会話ではどもっていなくても、授業中に本読みや発表で当てられて、すぐ声が出なかったり、声が小さくて怒られる経験が多いのが、思春期の吃音の特徴です。

言語障害のために、特定の言葉が言えないことがあるために、本読みのある科目（国語、英語、社会など）に苦手意識を持つ生徒がいます。特に、中学2年生、高校2年生での不登校に陥るケースがありますので、面談の際には、「小中高での友達からのからかい・いじめ、先生から授業中に誤解を受けたことはないですか？」と聞いてあげていただけると幸いです。

	連発 (最初のことばをくりかえす)	難発 (最初のことばが出るのに時間かかる)
苦手な場面	自己紹介、本読み、発表、号令、日直	
得意な場面	得意な話をする、2人以上で声を合わせる（斉読）、歌を歌う	
困ること	真似される、笑われる 「なんでそんな話し方なの？」と聞かれる	「早く言いなさい」とせかされる 答え・漢字がわからない誤解される 一生懸命話そうとするが声が出ない
先生ができること	①話すのに時間がかかっても待つ。 ②吃音のからかいをやめさせる（少しの真似でも、傷つきます） ③話し方のアドバイスをしない（ゆっくり、深呼吸して、落ち着いて、など）→効果がなく、逆にプレッシャーになります。 ④本読み、号令などの対応を本人と話す。	

「どもること＝悪い」が引き起こす悪循環



英検の面接試験
 “吃音症”が、障がい者特別措置の対象となりました
 (受験申込時に、特別措置申込書の提出もお願いします)